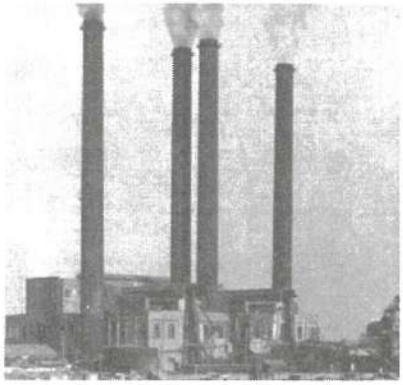
令和８年８月15日



千住のお化け煙突（千住宿400年より）

北区史を考える会

Association of Study on History of Kita-City in Tokyo

発行　北区史を考える会

会　報
第160号

郵便振替　00130－6－47111

第五〇〇回　月例見学会　5月23日（土）

全国でも例を見ない美術博物館
足立区美術博物館

有馬純雄

王子駅集合後、西日暮里駅、亀有駅を経由し足立区大谷田に到着。同館の学芸員荻原ちとせ氏の丁寧な説明により見学する事が出来た。

同館は１９８６年11月に足立区郷土博物館として開館。戦後の急速な人口増加により、伝統的な生活文化の滅失、歴史資料の散逸などを危惧し、郷土資料の収集や展示、文化財調査などを目的に設立された。単に資料の保管や顕彰をする場所ではなく、博物館法に基づく登録博物館となるべく「郷土博物館」との名称に拘ったという。

２００６年の開館20周年を経て、常設展示を改修し、永年の調査研究の成果をもとにメインテーマを「江戸・東京の東郊」に絞り、子供向けにホールの体験ブースや吹き出し型解説、明るい照明等を採用された。

２０１２年に「美と知性の宝庫　足立」展が開催された。これは区政80周年を契機に本格化した文化遺産調査で、旧家が所蔵する美術資料の調査がなされ、絵師、書家、俳諧師等の足跡と地域に広がる芸術活動が明らかとなり、それらを公開展示する機会となった。

開館から30年を経過した２０１６年頃となると、空調設備老朽化が進むと共に文化遺産調査による美術資料が増加。それらの対応を謀るべく「郷土資料館から美術博物館へ」との理念をもと、28ヶ月間に及ぶ大規模なリニューアル工事を実施。２０２５年４月に再開館された。

今年11月３日に開館40周年を迎え、三つの企画展が開催される。

○４月29日～８月30日
　収蔵資料展　個性光る足立のいっぴんたち
○９月19日～11月23日
　新版　広重目録
○２０２７年２月13日～４月11日
　特別展　門井掬水

郷土の歴史を知る事が郷土愛を育み、それが郷土の誇りへと繋がる。野菜集積地として活況を呈した千住宿、江戸の食生活を支えた区内各地の野菜生産、明治・大正期の近代化に伴う工業化、高度成長期の急速な宅地化と人々の暮らし。足立の今につながる歴史的特質を見事に捉えて区民や来館者に伝え訴えるこの「美術博物館」は、シビックプライドを区民に醸成させる発酵装置だと思えた。「足立区だ～い好き！」。この言葉が聞こえそうな館内だった。



目　次

・全国でも例を見ない美術博物館　足立区美術博物館……有馬純雄……1
・岩屋弁天の変遷と残された道しるべ……岩原良晴……2
・『十条台』駐屯地ものがたり(8)　赤煉瓦の一部は北区堀船で製造された……八木司郎……6